

# 委員が中心となった地域での話し合いについて

—「チーム京ヶ瀬 がっとなしよの会」の事例から—

---

全国農業委員会女性協議会 副会長

にいがた女性農業委員の会 会長

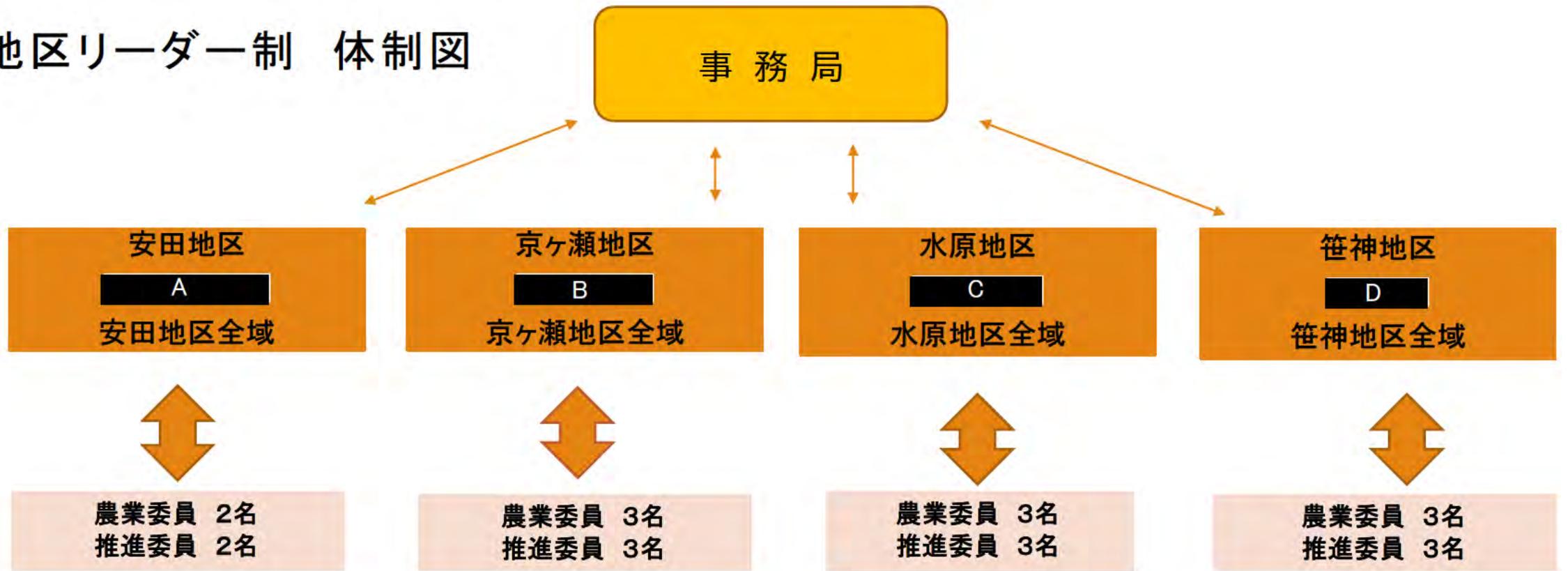
新潟県阿賀野市農業委員会 会長職務代理者

笠原 尚美

# 阿賀野市農業委員・農地利用最適化推進委員の定数



# 地区リーダー制 体制図



- ・農業委員、推進委員はペアで業務を行い、地区総括と月1回は連絡調整を行う
- ・あっせんや集約、目標地図の作成等は随時地区総括へ報告
- ・地区総括は地域担当委員の相談役となり、四役会議で進捗について報告  
(事務局との連絡調整は随時)
- ・地区総括は地区担当委員から報告・相談等を受けた際に、活動記録として記載するよう伝える

# 阿賀野市農業委員会の目標地図作成スケジュール

- R4年11月末 事務局の研修資料と委員の研修資料の突き合わせからスタート
- 
- R5年4月 農業委員会事務局内に「チーム目標地図」を設置 アンケート発送
- R5年5月 R5年7月末の協議の場に向けて準備開始
- R5年6月 地域計画・目標地図・協議の場について、委員向け説明会開催
- R5年7月 協議の場と地域の話し合いの説明会を4地区18地域で開催  
(各集落から3名程度。農家組合長・集落の担い手・認定農業者等が出席)  
7月30日～ 213集落で話し合い開始
- R6年2月 協議の場・地域での話し合い2回目を開催(進ちよく確認、現況地図の配布・圏域相談)
- 
- R6年7月末 地域での話し合い3回目を開催(進ちよく確認、目標地図の素案確認)
- R6年10月 各集落から農業委員会へ目標地図を提出

# 集落での話し合いに入るまでのプロセス

- 1回目の協議の場と話し合いで、各集落の農家組合長へ担当委員があいさつし、集落ごとの話し合いの希望日を記載する【連絡シート】を返信用封筒とともに渡したことにより、1回目の集落説明会と話し合いまでがスムーズになった。
- 連絡シートが提出されると、担当委員から農家組合長に電話を入れ、会場と日程の再確認、資料部数と参集範囲を確認し、地区リーダーに連絡。地区リーダーから事務局へ報告。
- 当日は普段着で30分前に会場集合。会場設営、片付けも手伝うこと。
- 1回目の話し合いは、全市共通のシナリオを作成して説明。
- 「次回の話し合いはいつにしましょうか」のひと声を掛け、決めてくること。その場で決定しない場合は後日確認。2回目日程を地区リーダーに報告。

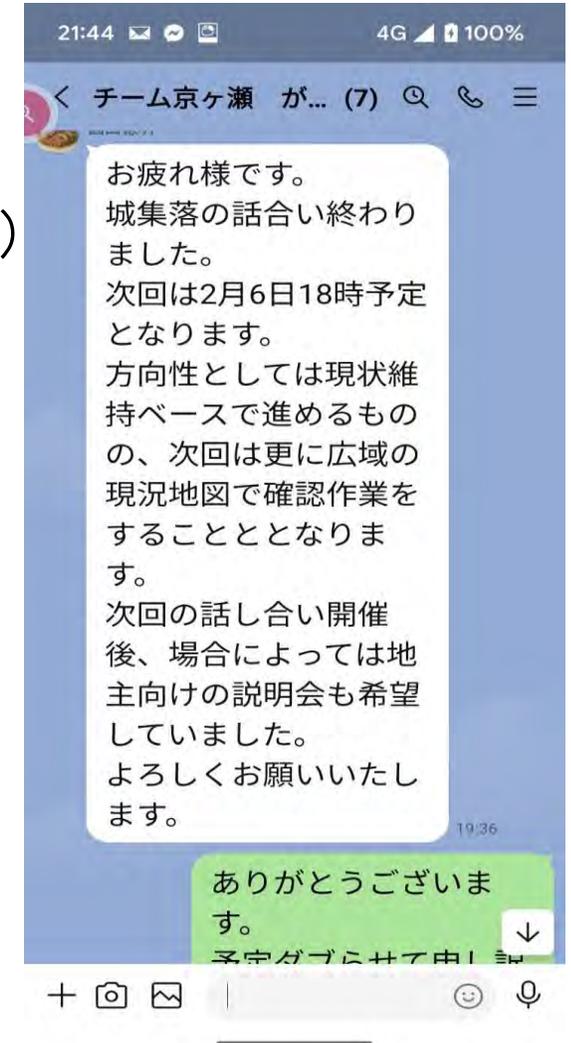


1回目の集落での話し合い持参資料(一部持ち帰り)

「話し合い」(農業委員会)と「協議」(農林課)の言葉の使い分けをしている。農業委員会は「話し合い」を使用。

# チーム京ヶ瀬 がっとなしよの会について

- ・ 阿賀野市旧京ヶ瀬村(京ヶ瀬・駒林・前山地区)を  
地区リーダー1名と農業委員・推進委員各3名で担当
- ・ 集落の話し合いには農業委員・推進委員の2名で出席(3名出席もあり)
- ・ 質疑には委員が答え、事務局は必要に応じて補足する
- ・ 日程調整、連絡事項はグループラインで行い、各地区の状況も共有
- ・ 担当委員の都合が悪い、日程が重複する場合はカバーしあい、  
本来の担当委員に話し合いの様子を報告する
- ・ 総会後に毎月打ち合わせを行い、地区全体の進ちよくを確認
- ・ ラインの連絡は夜10時から朝5時までには控える
- ・ 厳しいな、難しいなと思ったら即相談。知恵と援軍は7人分
- ・ 担当集落以外の話し合いの見学を積極的に行う



# 「チーム京ヶ瀬 がっとなしよの会」の事例

## 集落の特徴

農家戸数22戸（うち、土地持ち非農家18戸） → 本年度離農 1戸  
R7年離農予定 1戸  
認定農業者(担い手) 1名  
地域を担う者 1名

## 話し合いの経過

- 1回目 集落の耕作者・土地持ち非農家とも全員出席の上、地域計画と目標地図、制度の改正点、今後気をつけてほしいこと等を説明  
今後の話し合いは耕作者で進めていいか **土地持ち非農家に確認・了承**
- 2回目 集落の現況地図(耕作者名入)を提示し、不便なこと等を洗い出してもらう  
耕作者が減少して困ること、その対策等についても話し合う  
→ 水利、共同作業の問題など
- 3回目 現況地図を前に腕組みエンドレス 委員から入り作している他集落の人を入れての話し合いを勧め、**了承を得る**(誰に参加してもらうかは **自分たちで決めてもらう**)
- 4回目 隣接集落からの入り作者3名と一緒に話し合い  
**離農者が出るたび話し合いをし、集約していくことを確認**

京ヶ瀬チーム A集落 4回済



京ヶ瀬チーム A集落 4回済



# 「チーム京ヶ瀬 がっとなしよの会」の事例

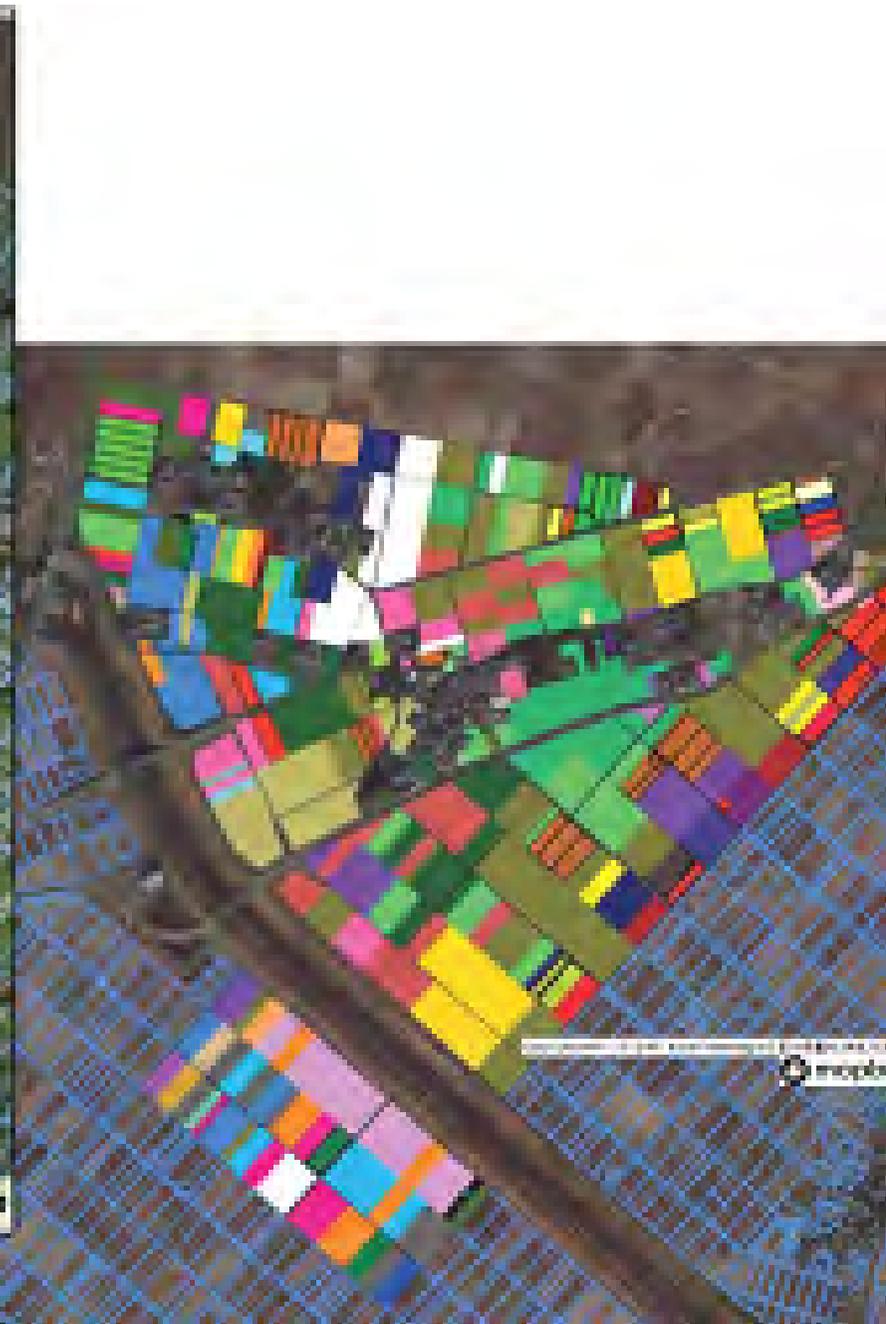
## 集落の特徴

京ヶ瀬チーム B集落 3回済

農家戸数25戸（うち、土地持ち非農家12戸） → 本年度離農 1戸  
10年以内に離農予定 3名  
認定農業者(担い手) 3名  
地域を担う者 12名

## 話し合いの経過

- 1回目 集落の耕作者・土地持ち非農家とも出席の上、地域計画と目標地図、制度の改正点、今後気をつけてほしいこと等を説明  
今後の話し合いは耕作者で進めていいか、**土地持ち非農家に確認・了承**
- 2回目 集落の現況地図(耕作者名入)を提示し、不便なこと等を洗い出してもらう  
10年以内に離農を予定している人の農地について、認定農業者3名での色分けを提案・**全員了承**
- 3回目 2回目の提案を受け、修正した色分け地図を提示  
**離農時に受け手で再配分を行い、集約していくことを集落として確認**  
不整形農地、細小農地は隣接する農地と畦抜きし、将来引き受けやすいようにすることで**合意**(手続き開始)  
将来の担い手が明確になったことで、2月23日の協議の場には27歳・40歳・60歳の3人で参加  
**今後も年に1回程度の話し合いをしていくことを確認**



# 「チーム京ヶ瀬 がっとなしよの会」の事例

駒林チーム 駒林地区7集落 3回済

## 地域の特徴

集落の周りを約400haの農地が囲んでいる7農家組合からなる地域

各集落での1回目の話し合い後、集落内で検討したところ、全集落で現状維持との結論



農業委員・推進委員から若手農業者(20代から59歳まで)での話し合いを担当委員から提案



次世代の耕作者の話し合いを開始

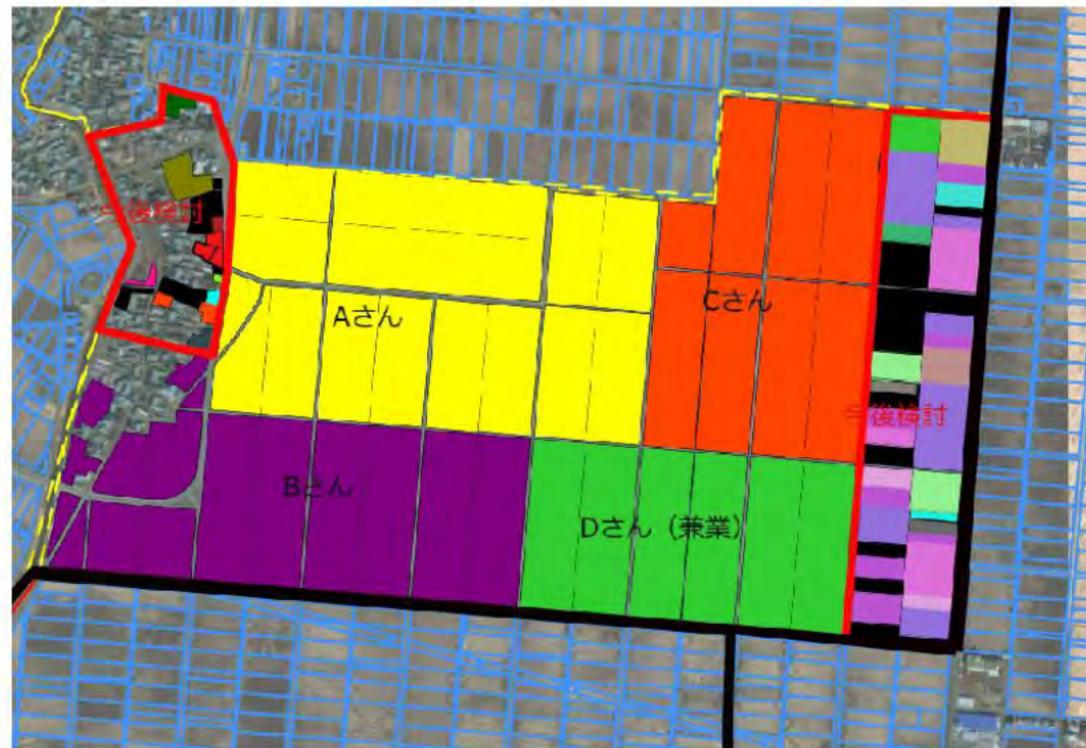
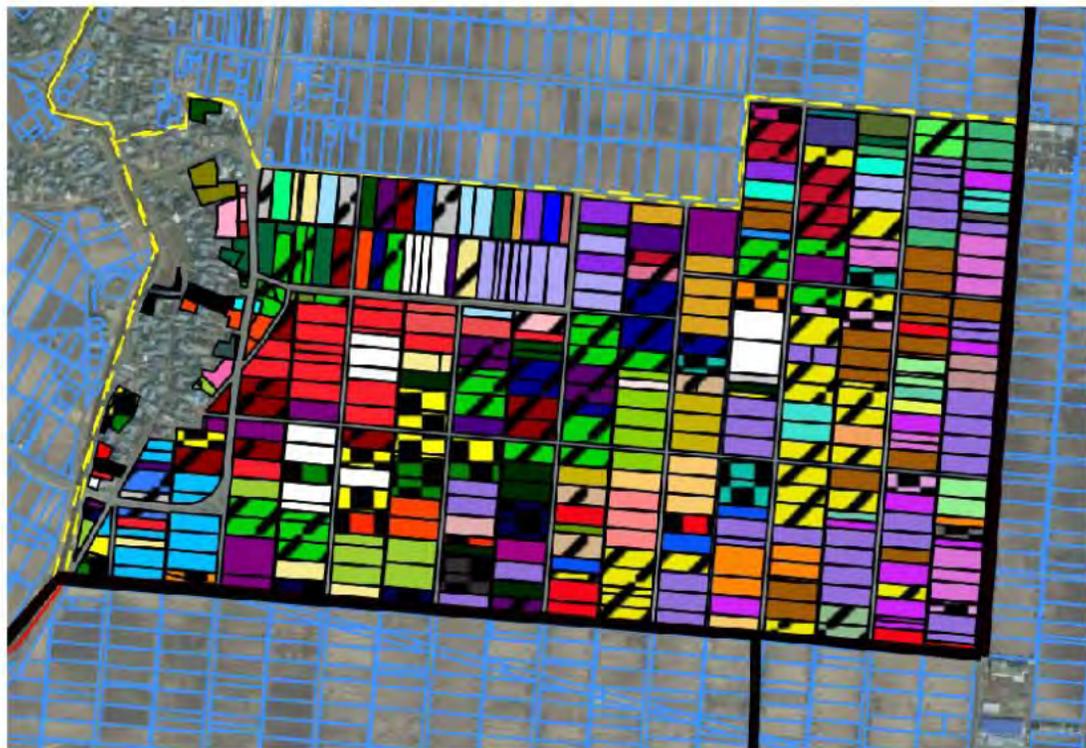
大胆すぎて面食らうも、ベテラン世代は生暖かく見守っている

今後も話し合いを継続し、必要に応じて地域内に周知する

集落の話し合い

旧学校区農家組合長の話し合い

次世代の耕作者で話し合い



10/10  
(1回目)

12/21  
(2回目)

2/3  
話し合い継続

# — まとめにかえて —

- なぜ地域計画が必要なのか、目標地図作成の話し合いをするのか、委員自身がきちんと理解する
- 大切なのは話し合いを継続していくこと。委員はそのためのお手伝い
- 「次はいつにしましょうか」のひと言は、話し合いを続ける重要な言葉
- 2回目の話し合いからは、農業者の間に入って同じ目線で話をする
- 行政任せ、事務局任せの目標地図は「作らされたもの」になりかねない
- 土地持ち非農家への報告は、簡潔に、欠かさずに
- 地域計画はゴールではなくスタート。農業委員・農地利用最適化推進委員は、地域農業の将来あるべき姿を地域とともに考え、農地という観点から携わっていく仕事なのだと自覚して地域や集落に入っていこう